

「ローマ教会 訪問の願い」

2018年11月03日

ローマの信徒への手紙 15章 22節～29節　　こういうわけで、あなたがたのところに何度も行こうと思いつながら、妨げられてきました。しかし今は、もうこの地方に働く場所がなく、その上、何年も前からあなたがたの所に行きたいと切望していたので、イスパニアに行くとき、訪ねたいと思います。途中であなたがたに会い、しばらくの間でも、あなたがたと共にいる喜びを味わってから、イスパニアへ向けて送り出してもらいたいです。しかし今は、聖なる者たちに仕えるためにエルサレムへ行きます。マケドニア州とアカイア州の人々が、エルサレムの聖なる者たちの中の貧しい人々を援助することに喜んで同意したからです。彼らは喜んで同意しましたが、実はそうする義務もあるのです。異邦人はその人たちの霊的なものにあずかったのですから、肉のもので彼らを助ける義務があります。それで、わたしはこのことを済ませてから、つまり、募金の成果を確実に手渡した後、あなたがたの所を経てイスパニアへ行きます。そのときには、キリストの祝福をあふれるほど持って、あなたがたの所に行くことになると思っています。

「こういうわけで」とは、キリストの名がまだ知られてない、他人が築いた土台の上ではない所で、異邦人への宣教をする使命にかけていたという「わけ」である。パウロは何度もローマ教会に行こうと思いつながら、妨げられてきた。パウロの宣教は主要都市を巡り歩いての宣教であった。時の都ローマ訪問は熱い願いであったろう。しかし今は、この地方（アカイア州）に働く場所がなく、何年も前からあなたがたの所に行きたいと切望していたので、イスパニアに行く時、訪ねたい。途中であなたがたに会い、しばらくの間でも、喜びを味わってから、イスパニアに送り出してもらいたい。イスパニアは当時、西の「地の果て」と言われていた地域で、パウロは、地の果てまで宣教したいと願っていた。

しかし今は、しなければならないことがある。ユダヤ人から迫害を受けて困窮したエルサレム教会を支援するために、マケドニア州とアカイア州の異邦人教会からの援助を届けるためにエルサレム行くことである。紀元 48 年に行われた最初の教会会議となったエルサレムの使徒会議で、エルサレム教会と異邦人宣教を目指すパウロたちの宣教団の間で、「律法ではなく、信仰において義とされる」という共通の信仰理解を得た。画期的な嬉しい同意を得ることができたのである。その時、両者の間で、割礼ある者とない者との宣教活動を分担し合った。付帯条件として「ただ、わたしたちが貧しい人たちのことを忘れないようにとのことでしたが、これは、ちょうどわたしも心がけてきた点です」を付け加えた。パウロは、これを深く覚え、信仰をもって忠実に従ったのである。パウロは、「彼らは喜んで同意しましたが、実はそうする義務もあるのです。異邦人はその人たちの霊的なものにあずかったのですから、肉のもので彼らを助ける義務があります」と言っている。異邦人はエルサレム教会から霊的な信仰を受けたのだから、肉のもので助ける義務、生活を支える具体的な支援をする必要がある。それで今、私は、異邦人教会からの募金の成果をエルサレム教会に確実に手渡した後、ローマ教会のあなたがたを訪ね、それからイスパニアに行く。あなたがたの所に行った時、キリストの祝福を溢れるほど持って行くことになると思っています。キリストの福音に押し出された力強い信仰、壮大な宣教のための聖なる野心に圧倒される。パウロは小さく、病弱な体に、飽くことのない開拓伝道者魂を燃えたぎらせ、希望に生きていたのである。